

図書関係事業概要

昭和二十九年年度に於ける主なる事業は、左に列記した如くである。しかしこの外去る昭和廿七、廿八年度に於いて、本文上下二冊の刊行をみた和漢図書分類目録が、近く索引の刊行をみて全三冊の刊行を了へる予定であることを報告する。

一、出版

桂宮本叢書第十三卷 私家集十三 一冊 二七〇部 (市販 二二三〇部) 養徳社

(内容) B6版、三八七頁、叢書第十二巻に引続き、三条西実隆の詠草「再昌草三」(第廿四—卅六 大永四—天文五)を収める。(昭和二九・二発行 四五〇円)

桂宮本叢書第九巻 私家集九 一冊 二七〇部 (市販 二二三〇部) 養徳社

(内容) B6版、二七八頁、平安前中期の女流歌人十三人の十五部を収めた。即ち本院侍従集、傳大納言母上集、御形宣旨集、賀茂女集、重之女集、紫式部集、清少納言集、和泉式部集、大斎院御集、赤染衛門集、伊勢大輔集(甲乙二本)、相模集、思女集、大式三位集、である。(昭和二九・三発行 四五〇円)

桂宮本叢書第十八巻 連歌一 一冊 二七〇部 (市販 二二三〇部) 養徳社

(内容) B6版、三四六頁、実隆、肖柏、両判の宗長百番連歌合をはじめ、宗長連歌自註、宗祇独吟名所百韻、矢島小林庵何木百韻、住吉法楽何船百韻、牡丹花宗碩両吟何人百韻、夢庵独吟何路百韻、梅宗牧両吟朝何百韻、宗牧独吟何人百韻、北野社一万句御発句脇第三并序等の連歌注を主として収めた。(昭和二九・一二発行 四五〇円)

旧伏見 水左記 康平七年 春夏 一卷 解説一冊 一五〇部 便利堂

本書は、さきに図書寮典籍解題に紹介されたとおり、旧伏見宮家蔵本の内より終戦後発見せられた学界未知の新史料で、堀河左大臣源俊房の目筆歴記である。

二、マイクロ・フィルム

昭和二十九年年度に於ける撮影書目は左の通りである。

小 右	記(東山御文庫本)	江戸写	六四冊	二九三三コマ
小 右	記(東山御文庫本)	江戸写	一冊	一七〇コマ
小 右	記(東山御文庫本)	江戸写	六冊	一八三〇コマ
小右記部類目録(東山御文庫本)		江戸写	四冊	一四八〇コマ
中 右	記(東山御文庫本)	江戸写	七四冊之 内六冊	三七一〇コマ
中右記目録(東山御文庫本)		江戸写	三冊	一四五〇コマ

後二条関白記(東山御文庫本)	江戸写	三冊	一二四コマ	本朝皇胤紹運録(東山御文庫本)	江戸写	一折	七一コマ
後二条関白記(東山御文庫本)	江戸写	二冊	二二四コマ	本朝皇胤紹運録(東山御文庫本)	江戸写	一冊	一二六コマ
土記(東山御文庫本)	江戸写	一冊	五六コマ	本朝皇胤紹運録(東山御文庫本)	江戸写	一卷	三二コマ
律第七一(東山御文庫本)	江戸写	二冊	一一〇コマ	帝王系図(東山御文庫本)	江戸写	一冊	五五コマ
明月記(東山御文庫本)	江戸写	一〇冊	五三〇コマ	住吉大神宮年中行事(東山御文庫本)	江戸写	一冊	三四コマ
明月記(東山御文庫本)	江戸写	二五冊	一四六八コマ	後宮譜(東山御文庫本)	江戸写	一冊	二二コマ
明月記(東山御文庫本)	江戸模写	一卷	一二コマ	藤原氏系図(東山御文庫本)	江戸写	二折	一三二コマ
明月記(東山御文庫本)	江戸模写	一卷	七コマ	諸門跡系図(東山御文庫本)	江戸写	一五折	六六コマ
明月記(東山御文庫本)	江戸模写	一卷	四五コマ	神代系図(東山御文庫本)	鎌倉写	一卷	四コマ
山槐記(東山御文庫本)	江戸写	一卷	八コマ	御湯殿上日記(東山御文庫本)	原本	一卷	六八コマ
宇槐記(東山御文庫本)	江戸写	一冊	二九コマ	帝王略系図(東山御文庫本)	南北朝写	一鋪	三コマ
後中記(東山御文庫本)	室町写	一冊	一〇コマ	政始記(東山御文庫本)	鎌倉写	一卷	一一コマ
不知記(東山御文庫本)	江戸写	一冊	二五コマ	敘位記(東山御文庫本)	鎌倉写	一卷	一七コマ
不知記(東山御文庫本)	原本	一卷	五コマ	踐祚抄(東山御文庫本)	江戸写	一卷	五四コマ
不知記(永昌記)(東山御文庫本)	江戸写		三八コマ	政部類記(東山御文庫本)	鎌倉写	一卷	一九コマ
仁治三年記(東山御文庫本)	江戸写	一冊	一二コマ	大饗記(東山御文庫本)	鎌倉写	一卷	九コマ
江家次第(東山御文庫本)	江戸写	五冊	一一九コマ	あつもり、なすの与一(御手許本)		一卷	四四コマ
伏見宮御記(東山御文庫本)	江戸写	一冊	二六コマ	たかたち(御手許本)		一卷	四四コマ
西宮記卷二(東山御文庫本)	室町写	一冊	一一コマ	奈良花林院歌合(書陵部本)	江戸写	一冊	二九コマ
天書即第七位(東山御文庫本)	江戸写	一冊	一四コマ	手鑑(御手許本)		二折	九六コマ
師通公記(東山御文庫本)	江戸写	五冊	二八九コマ	遣米使節		一冊	二二二コマ

三、展 示 会

恒例の展示会として、昭和二十九年九月に東山御文庫本の展示会を開催した。その書目は前掲マイクロ・フィルム撮影書目と同様である。そ

の他、学会、研究団体等の要望に応じ、適宜所望主題により小展示会を開き、学術研究の資に供した。